

園だより 2月

いかに幸いなことでしょう あなたによって勇気を出し

心に広い道を見ている人は

詩編84篇6節

何年振りかの長い寒波が日本列島を覆っていると言われた1月の後半。確かに、大人たちは肩に力が入るくらいの寒さを感じました。けれども子どもたちはというと、半そでで過ごしている子もいました。気づくと裸足で園庭を駆け回っている子どもたちも。最初は厚手の上着を着て園庭に出てきますが、あっという間に脱ぎ捨て身軽になって遊んでいます。子どもたちにとっては寒波もなんのそのです。園庭がお日様いっぱいの良い環境であることも一つの要因ですが。

元気いっぱいに過ごした1月の日々。「ね～、鬼ごっこしよう」とお友だちを誘って遊びだす年少組の姿がありました。仲間意識が芽生え、一緒に遊ぶ楽しさを十分に感じている日々でした。だからこそ故の想いの違いによるお友だち同士のぶつかり合いの姿も見られます。お互いを感じ合うとても大切な経験のときです。保育者たちは十分に配慮しつつ見守ります。自分たちで育てた野菜でお料理。包丁さばきはお手の物、どうしたら野菜を小さく切れるかなあと切りながら常に工夫をしている年中組。幼稚園生活の中で、教えられたことを教えられたとおりに、の思考回路ではなく、常にどうしたらいいかなと考え続けることが当たり前の思考回路が育まれているからこそその姿です。また、以前「やってみたい」と心が動かず見ていたお友だちが今回とても意欲的に取り組む姿がありました。嬉しい姿でした。皆が同じ時に同じ経験をするのが平等なのではないのです。個々のそのとき（タイミング）を大切に自ら動き出すそのときを逃さず経験に繋げることで育まれる子どもたちの成長が実証されています。今年度も1月の風物として「獅子舞」を披露していただきました。昨年度、獅子舞を楽しんだ後、何日もかけて「獅子舞のお獅子作り」が年長組で展開されていました。素材選びから始まり、試行錯誤し、友だちと意見を交わし、知恵を絞り合い、それはそれは子どもたちのそれまでの育みが集結した遊びの展開でした。そんなお獅子作り、今年度は？というと、獅子舞が行われた日、至極当たり前に「お獅子作りたい」と年長組で製作が始まりました。年中組の時、年長児が作ったお獅子と一緒に被り園内を練り歩いていた子どもたち、様々に工夫をしながらあっという間に今年度のお獅子が出来上がり、午後には他学年の子どもたちと園内を獅子舞で練り歩いていました。昨年のお獅子作りの展開と全然違った、けれども昨年度の経験があったからこそ今年度のお獅子作りの展開に違いのない今年度の子どもたちの様子に、改めて継続的な経験（遊び）に基づいての子どもたちの育みの素晴らしさに深い感動を覚えました。何気ない生活の中で子どもたちは研ぎ澄ました感性で様々な経験を自分の中に取り込み様々なことの糧としています。

新年が明けての短い1月の日々でしたが、まとめの学期ならではのこんなにも豊かな子どもたちの成長の様子に感謝でした。2月の日々も子どもたちにとって豊かな成長の日々であることを願い共に過ごしてまいります。よろしく願い申し上げます。

園長 駿河 幸子